

岐阜県立岐阜農林高等学校

襷

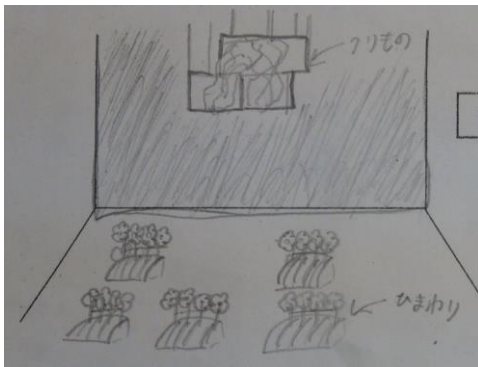
作：西野 勇仁

◇概要◇

寂れつつある町。若者は減り、耕作放棄地では向日葵を育てている。終戦直後から続く駅伝では、襷の代わりに、上泊高校農業科が作った大根を運ぶ。母の死をきっかけに、双子の姉妹が「どちらがこの未来のない町に残るか」争うも、互いを想い、両者「自分が残る」と言い張る。

町には転校生がやってくる。

繋がる想いと、変わっていくものを描く。



◇メッセージカードより◇

- ・郷土愛、母校愛が感じられ本当にすがすがしい演劇でした。こうした若者が地域に根差していくと思うと、将来への展望も捨てたものではないなと思いました。
- ・何度見ても毎回進化していて、そのたびに面白くなっていて本当に素晴らしいです。尊敬しています。
- ・マラソンのシーンで、本当に走っているかのようにでした。走り方とか臨場感とかすべてがすごかったです。
- ・舞台全体に動きがあってとても素晴らしかったです。ギャグシーンのキレ、転換の鮮やかさに一気に引き込まれました。面白かったし感動しました。
- ・大勢の部員をフル活用した劇で、たくさんの街の人を演じる時に、リアルに人々の活気や息遣いを感じることができ、スケールの大きさに圧倒されました。

◇楽屋インタビュー◇

Q1. 苦労したことは？

A. インフルエンザにかかってしまった子がいて今日調整を加えていたので、急ぎすぎないように全員で連携して精いっぱいやりました。

Q2. 吊り物の意味は？

A. あの吊り物は山でもあり、上を見上げて生きる象徴です。(あまねたち→ひまわり→山)

Q3. 場面転換で工夫したところは？

A. 転換中も演技をすることです。また、走っていることが多かったので、整理をつけたくなくて暗転は入れませんでした。

Q4. 走る演技で大変だったことは？

A. 走る演技をするときに足が上がっていないと、本当に走っているように見えないので、足を上げ上半身を動かさないようにしました。

Q5. 舞台装置で工夫したところは？

A. なんにでも使えるように作りました。置物は、栄えていない街なので色などをシンプルにしました。



【速報担当】 池田 愛祐佳(仁愛)

※ 岐阜県立岐阜農林高等学校のみなさん お疲れ様でした！！